

## #メンバー紹介

このネットワークは、この大学で環境・サステナビリティ関連を主に扱っている4つの学生団体のメンバーで構成されています。TSCP 学生委員会、環境三四郎、ECHO、Climate Action UT の4つですね。また、GLP-GEFIL プログラムや Bizjapan の学生との共同プロジェクトも行っています。

今まではそれぞれの団体が別個に環境問題に取り組んでいましたが、今は東大を持続可能にしていくために、こういったネットワークを作って、共同でプロジェクトを進めています。

大学との対話や、ウォーターサーバーを導入するためのプロジェクトや、植物性由来の食品を学食に増やすためのプロジェクトなどを進めています。

この動画では持続可能な東京大学を作っていく上で私たちが考えていること、今の東大の課題や提案などを共有したいと思います。

## 私たちのビジョン

まずは自分たちの理想の話なのですが、本ネットワークは、「持続可能性を理解し、その知識を実践することで、現在および将来の世代の生活を豊かに変えることができる、地球市民を育成する東京大学」になってほしいと考えています。

なぜ東大での変化が重要かと言えば、やはり環境問題を解決するために持続可能な社会への転換を主導していく人が大量に必要とされる中で、東大は毎年数千人の卒業生を送り出す教育機関だからだと思います。人を育成するという点で、東京大学は社会の転換に大きく貢献できるポテンシャルを持っていて、それを十分に発揮するには、大学には様々な変化が必要だと私たちは考えています。

## ミッション

ミッション・ステートメントは、前のスライドで述べたビジョンを達成するための、より具体的な「方針」を考えたもので、ざっとこんな感じです。

## 現在の状況

では、本題に入りましょう。今回、学生が主体となってサステナビリティに取り組んでいる中で、私たちが感じた東大の現状を以下のように分類しています。

### 課題1 連携不足

まず、関連する活動が細分化されており、(1)学生団体、(2)学生団体、教員、事務局、(3)東大と地域社会、非営利団体、民間企業などの外部団体の間での連携がほとんどないこと。また、上記のステークホルダーが情報を共有し、関連するプロジェクトで効果的に協力できる中心的な組織やコミュニケーション・プラットフォームがないというのが現状です。

### 課題2：学生などの「参加」について

学生の参加や意識は一言で言って高くありません。

TSCP の学生委員会が昨年実施した「SDGs に関する意識調査」というのがありますが、今回の調査では、学生の3人に1人がSDGsを「知らない」「聞いたことはあるがよく知らない」と回答しています。今の学生の知識・意識とかは高くないということですが、これは伸びしろでもあって、というには、49%、半数近くの人が東大の講義でSDGsを知ったと答えていることです。大学での教育次第で、サステナビリティの意識とかは高まるりうることを示唆しています。

2つ目は、学内の環境団体に参加している学生の数です。学内の380以上のサークルの中で、持続可能性に主として取り組んでいるのは、このネットワークを形成する4つの団体だけです。そして、東大に在籍する28,000人以上の学生のうち、この4つの団体に所属しているのはわずか44人で、とても少ないのが現状です。

### 課題3 #範囲が限定されている

最後の大きな課題は、活動の範囲が限定されていることです。まず、学内の学生が持続可能なキャンパスを作っていく活動があまり重視されておらず、それを支援するための体制もないわけです。これはすごくもったいないことで、しかし、持続可能性に関して実際手を動かして何かを実現していくことは、座学だけでは得られない学びがあり、学生が社会に出た後も社会の中でより良い変化を生み出す糧になるはずで、大学の中で考えても、立場（学生、教員、事務）の違いや国籍（日本人か、留学生か）を超えて持続可能なキャンパスに向けて努力できれば、東大はもっといい大学になれるかもしれないわけです。範囲が限られているというのは、年次環境報告書を見てもそうで、この報告書では、排出量削減目標を掲げたTSCP計画の進捗状況、化学物質の廃棄物管理、防災など、主にトップダウンで取り組まれており、キャンパスの持続可能性を、実務チームが管理する課題ととらえすぎているという問題があります。

ここからは現状を改善するためのネットワークからの提案をまとめてお伝えします。

## 提案1 多様な立場の人を巻き込んだプラットフォーム

連携が不足しているという問題に対し、私たちは、多様な立場の人が参加する、持続可能性関連の活動のためのプラットフォームの創設を提案します。

私たちのネットワークは、学生内での連携を促進するものです。私たちは対話を重視する UTokyo Compass のビジョンのもと、学生、教員、事務の間のコミュニケーションと連携を強化してほしいと思っています。

次に、TSCP についてです。現在、TSCP はキャンパスの直接的な排出削減に向け活動していますが、それに限らず、持続可能なキャンパスづくりに向けた学生の取り組みを支援する総合型オフィスとして機能すべきだと考えます。また、TSCP のウェブサイトやキャンパスの持続可能性に関するイベント、講義、プロジェクト、組織などを紹介する、中心的なオンラインプラットフォームにすることを提案します。

そして、キャンパスの持続可能性に関する取り組みを支援するための予算の拡大も重要ですので、個人からの寄付や、入学時や授業料と一緒に集めた学生からの寄付をもとに、サステナビリティ基金を設立することも検討しています。

また、現在、TSCP チームにはフルタイムの職員が4人しかいないため、人員を増やす必要があります。部分的に学生インターンで賄うのも手だと思います。

加えて、環境報告書も、(1) 研究・教育、(2) 教職員や学生の活動、(3) 運営、(4) 実務をカバーしたサステナビリティプランを示すように刷新することができます。

## ラウンドテーブル

ここで私たちが考えた Round table について説明します。こちらがそのアイデアの概念図です。Roundtable とは、学生や教職員など関心のあるすべての個人や団体が集まり、持続可能性に関する計画やプロジェクトについて話し合う場です。定期的で開催され、実用的な取り組みを考え出すことができます。また、提案されたプロジェクトの必要性、予想される影響、公共性など予算関連の意思決定の基礎となることについても議論します。

Round table により、学生が、教員や事務の方に支援を求めやすくなり、大学コミュニティの中で持続可能性の問題が普及するのにつながると考えられます。

## 提案2：教育理念

2つ目の提案は、持続可能性を教育理念の中核に据えることです。

大学憲章と中期目標では、実践力と国際性を持った人格の育成とありますが、具体的な方針を定めた年度計画や環境理念・基本方針では、学生主導の取り組みに言及していません。また、藤井総長のメッセージでは、グローバル・コモンズの管理の基盤となるような対話の機会を増やすことが重要だとしています。

私たちは、大学全体が生きた実験室で、教室の内外を問わず学習の場だと捉えており、大学規模の計画や指針を示した文書には、サステナビリティリテラシーの重要性を明示する

べきだと考えます。その上で、対話を行える講義、サマースクールなどの短期集中プログラム、キャンパス内外でのインターンシップ、持続可能性の研究の奨励、持続可能性関連の内容を講義に組み込むための教員向けのガイドラインなどで、得た知識の「実践」を促す方法を規定すべきであると考えます。

### 提案3：対象範囲の拡大

最後の提案は、取り組みの範囲を拡大することです。私たちは、まず全スコープについて第三者の検証を受けた温室効果ガスインベントリを作成し、スコープ3排出量の重要性を判断して、取り組むべきスコープ3のカテゴリーを特定することを提案します。

持続可能性は、エネルギー消費の削減にとどまらず、ごみの削減や、環境負荷の小さい商品を購入する意思決定にまで及びます。標準化された報告システムがあれば、包括的な持続可能性の目標づくりを確立する指針となります。

スライドのアイコンは目標分野の例です。そして、東大は進んでいる大学に比べ、本格的に取り組んでいません。

### 持続可能な大学とは？

最後になりましたが、今回この動画では、

どうすれば持続可能な大学を作ることができるのか？

持続可能な大学とはどのようなものか？

その理想からどれくらい離れているのか？

そして、教育機関をリードする東京大学が持続可能性を追求する意味とは？

といった問いに対して、私たち Utokyo Sustainable Network が学生の視点から答えました。

しかし、これらに大学レベルで答えるためには、学生だけでなく、さまざまなステークホルダーを巻き込んだ議論や合意形成が必要です。

そのためのプラットフォームとして、「ラウンドテーブル」を発表しました。

また、包括的で定量的な持続可能性の目標を設定し、その進捗状況を客観的に評価するために環境報告書の修正を提案しました。

そして最後に、ウォーターサーバープロジェクトの実現などの実際の変化を起こすために、Sustainability Fund を導入と、本学のサステナビリティに関する取り組みを支援・管理する中心組織の設立を提案しました。

**Utokyo Sustainable Network** は持続可能なキャンパスづくりに向けてさまざまな活動を行っています。私たちの今後の活動に関心を持ったり、参加したりしていただけたら嬉しいです。最後まで見てくださり、ありがとうございました。